

Dream up the future.

NRI グループは、未来社会を洞察し、
その実現を担う『未来社会創発企業』として、
あくなき挑戦を続けます。

特集

NRIの源流 (第1回)

常に世の中の一步先を行こうとする気概、
顧客志向といったNRI独自の強み。
その源流はどこにあるのかを探っていきます。

トピックス

木場総合センター タワーN棟竣工

**未来創発フォーラム2007 [名古屋]を
開催**

**「PRアワードグランプリ」
優秀賞を受賞**



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

株式会社野村総合研究所(以下NRI)の2007年3月期のNRIだよりをお送りするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当期は、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加および雇用情勢の改善などにより、景気が緩やかに拡大する中、金融サービス業をはじめ、製造業および非製造業におけるIT投資需要が順調に推移しました。このような環境のもと、NRIでは営業活動・事業基盤の強化に努めるだけでなく、中長期の持続的な成長に向けて、お客様へのIT戦略に関する提案活動を積極化したほか、プロジェクト管理の徹底や人材育成の強化および労働環境の改善などにも取り組みました。

この結果、当期の連結業績は売上高3,225億円、営業利益438億円、経常利益460億円、当期純利益270億円となりました。また、当期の1株当たり年間配当金は、180円(うち期末配当金110円)と、前期に比べ40円増配しました。

NRIグループでは、コンサルティングからシステム開発・運用処理までの一貫したサービス、「ナビゲーション&ソリューション」を通じて、業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

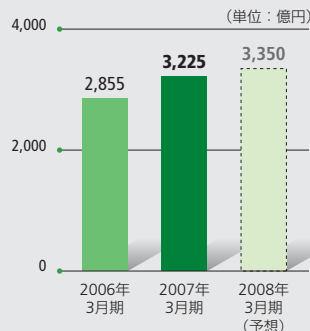
2007年5月
取締役社長 (CEO&COO)

藤沼 彰久

売上高

3,225億円

前期比 +12.9%

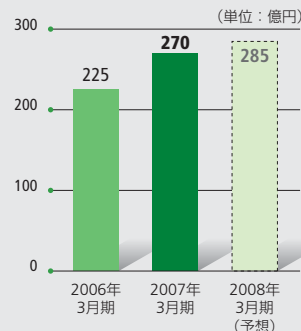


売上高は、証券業向けを中心とした金融サービス業向けの好調および大型開発案件の受注による官公庁向けの増加により、3,225億円と前期比+12.9%の増収となりました。

当期純利益

270億円

前期比 +20.0%



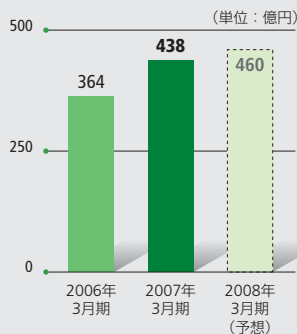
当期純利益は、270億円と前期比+20.0%の増益となりました。

- (注) 1. 記載金額は、億円未満(1株当たり当期純利益・配当金は円未満)を切捨てて表示しております。
- (注) 2. 2008年3月期通期予想は、2007年4月に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益および配当金は当該予想と異なる結果となる可能性があります。
- (注) 3. 2007年3月期の1株当たり当期純利益・配当金は、株式分割(1:5)による影響を遡及した数字を()に表示しています。

営業利益

438億円

前期比 **+20.4%**

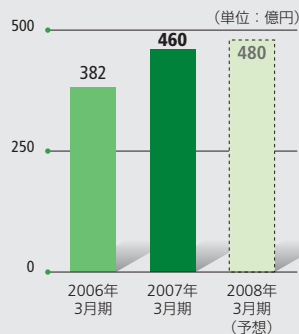


営業利益は、中長期の持続的成長に向けた活動や生産性向上・セキュリティ強化への取り組みにより、販売費及び一般管理費が増加しましたが、売上原価の増加を抑制した結果、438億円と前期比+20.4%の増益となりました。

経常利益

460億円

前期比 **+20.5%**

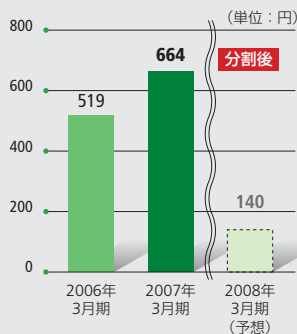


営業利益の増加に加え、受取配当金など営業外収益の増加により、460億円と前期比+20.5%の増益となりました。

1株当たり当期純利益

664円 (132円)^{注3}

前期比 **+145円**



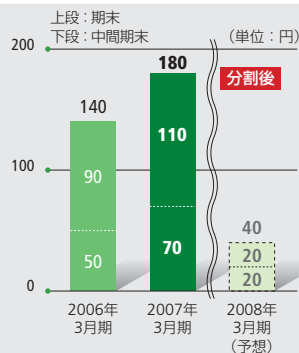
当期純利益の増加にとともに、前期より145円増加しました。

※2008年3月期の予想は、株式分割 (1:5) 後の値となります。

1株当たり配当金

180円 (36円)^{注3}

前期比 **+40円**



当期配当金は180円と、前期より40円増配しました。

※2008年3月期の予想は、株式分割 (1:5) 後の値となります。

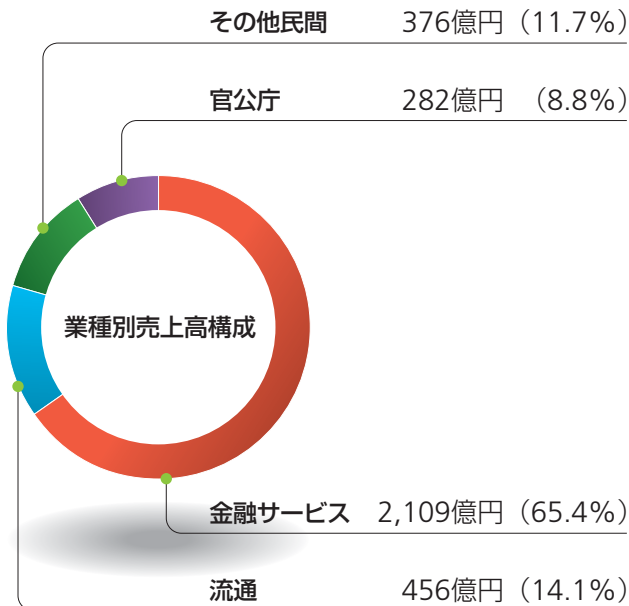
目次

- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------|
| 1 株主の皆様へ | 5 連結財務諸表 | 12 株主アンケートより |
| 1 数字で見るNRI | 7 特集「NRIの源流」(第1回) | 13 会社データ |
| 3 業種別およびセグメント別の概況 | 11 トピックス | |

業種別およびセグメント別の概況

業種別売上高

売上高を業種別に見ると、特に金融サービス業向けが伸長しました。主要顧客やオンライン証券向けなど証券業務関連の開発案件、システム運用が増加したほか、保険業向けの開発案件も増加しました。流通向けは、大型開発案件等の一巡により総じて低調となりましたが、官公庁向けは、大型開発案件にかかる開発・製品販売および商品販売の増加で好調でした。



(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

セグメント(サービス)別売上高

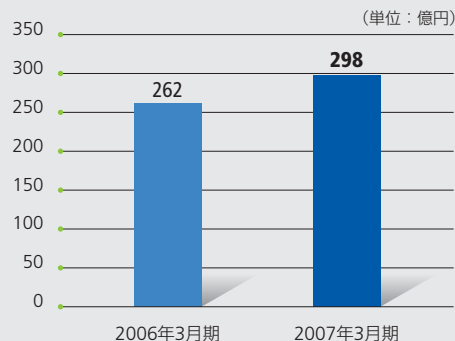
コンサルティングサービス

298億円

前期比 +13.6%

調査・研究、経営コンサルティング、システムコンサルティングなどのサービスを提供しています。NRIグループではナレッジ(=知)を核にして、お客様の問題解決と新しいビジネスの創出を手がけています。

コンサルティングサービス売上高

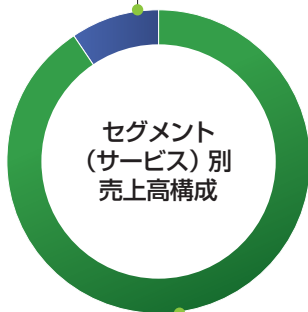


民間企業向け経営コンサルティングが企業の内部統制、業務改革などの案件を中心に順調に推移したほか、金融サービス業向けのシステムコンサルティングが好調でした。また、アジア、特に中国におけるコンサルティング事業の確立に向けた活動などを推進しました。

この結果、コンサルティングサービスの売上高は、前期に比べ+13.6%増収の、298億円となりました。

(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

コンサルティングサービス
298億円 (9.3%)



ITソリューションサービス
2,926億円 (90.7%)

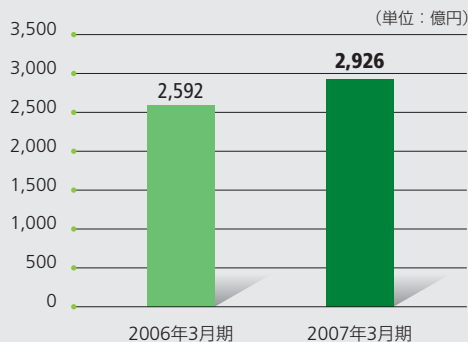
ITソリューションサービス

2,926億円

前期比 +12.9%

最先端の情報技術と長年にわたって蓄積してきた業務知識を活用し、お客様との事業・業務改革に関わるIT戦略パートナーとして、情報システムの企画・設計から、開発・運用までをおこなっています。

ITソリューションサービス売上高



金融サービス業向けおよび官公庁向けが好調に推移しました。

この結果、ITソリューションサービスの売上高は、前期に比べ+12.9%増収の、2,926億円となりました。

要約連結損益計算書

単位：百万円

	2006年3月期 自2005年4月1日 至2006年3月31日	2007年3月期 自2006年4月1日 至2007年3月31日	増減額
売上高	285,585	322,531	+36,946
売上原価	213,706	234,578	+20,871
▶ 売上総利益	71,878	87,953	+16,074
販売費及び一般管理費	35,409	44,055	+8,646
営業利益	36,469	43,897	+7,427
▶ 営業外損益	1,783	2,202	+419
経常利益	38,252	46,099	+7,847
特別損益	△717	644	+1,361
▶ 税金等調整前当期純利益	37,535	46,744	+9,208
法人税等	15,017	19,725	+4,707
当期純利益	22,518	27,019	+4,500

▶ 売上総利益

売上高の増加に加えて、プロジェクト管理の強化や生産性および品質を高める活動の推進、当社開発製品の活用、積極的な中国企業への外注などにより売上原価を抑制した結果、売上総利益は879億円と、前期比で160億円の増益となりました。

▶ 営業外損益

受取配当金の大幅な増加等により、22億円と前期比で4億円の増益となりました。

▶ 税金等調整前当期純利益

経常利益の増加に加え、前期にあった投資有価証券評価減等の特別損失の減少により、467億円と前期比で92億円の増益となりました。

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

2. 要約連結貸借対照表については、2007年3月期中間より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」を適用し、表示を変更しています。

要約連結貸借対照表

単位：百万円

	2006年3月期 (2006年3月31日現在)	2007年3月期 (2007年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	137,779	212,584
固定資産	174,007	158,873
有形固定資産	39,964	49,478
無形固定資産	20,420	19,651
投資その他の資産	113,622	89,743
資産合計	311,786	371,458
(負債の部)		
流動負債	64,902	80,739
固定負債	37,582	74,486
負債合計	102,485	155,225
(純資産の部)注2		
株主資本		
資本金	18,600	18,600
資本剰余金	14,800	14,800
利益剰余金	186,670	206,990
自己株式	△48,133	△47,157
株主資本合計	171,937	193,232
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	37,369	22,193
為替換算調整勘定	△5	499
評価・換算差額等合計	37,364	22,692
新株予約権	-	307
純資産合計	209,301	216,232
負債・純資産合計	311,786	371,458

要約連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2006年3月期 自2005年4月1日 至2006年3月31日	2007年3月期 自2006年4月1日 至2007年3月31日	増減額
▶ 営業活動による キャッシュ・フロー	48,875	39,583	△9,292
▶ 投資活動による キャッシュ・フロー	17,853	△18,578	△36,432
▶ 財務活動による キャッシュ・フロー	△54,828	44,040	+98,868
現金及び現金同等物に 係る換算差額	174	56	△117
現金及び現金同等物の 増減額(減少：△)	12,075	65,101	+53,026
現金及び現金同等物の 期首残高	38,677	50,752	+12,075
現金及び現金同等物の 期末残高	50,752	115,854	+65,101

▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

当期純利益は増加しましたが、売上債権の増加等により、395億円となりました。

▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

共同利用型システムサービスへの投資や、有価証券および投資有価証券の売買等により、△185億円となりました。

▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

新株予約権付社債の発行による収入や配当金の支払い等により、440億円となりました。

NRIの源流

(第1回)

どの企業にも、創業以来、社員に浸透している独自の精神、仕事に対する気概のようなものがあります。それが企業の強みになり、時代が変わり社員が世代交代しようとも会社の命脈を保ち、事業を発展させていきます。

NRIにも、例えば、常に世の中の一步先を行こうとする気概、徹底した現場主義や顧客志向といった独自の強みがあります。その源流はどこにあるのか、2回に分けて探っていきます。



時代を先取る気概の原点 ～「担当者はお前ひとり」

NRIが創設されたのは1965年4月。創業の原点はここですが、社員に引き継がれ形成されてきたNRIならではの精神の源流はもっと以前にあります。振り返ると、いくつか大きな流れが見えてきます。

その一つは、野村證券の調査部（当時）に繋がります。もともとNRIは、野村證券の40周年記念事業の一環として生まれました。野村證券の調査部が母体の、企業調査や経済調査をおこなう証券調査部と、政府や自治体、企業の課題を解決する総合研究部で構成されていました。

1959年に野村證券の調査部に入り、NRI専務を最後に90年に退職した青山浩一郎は、NRIの社員に貫かれた強みは何かという問いに、即答しました。

「『担当者はお前ひとりだ』この言葉に尽きる」

自分が担当する調査に関しては、会社を代表するつもりで取り組む。その内容は質・量ともに日本のトップでなければならない。入社早々、このような姿勢を叩き込まれた青山は、30社の企業分析を受け持ちます。新入社員であっても10年上の先輩たちとの力量差は配慮されず、社長からも担当者として一人呼び出され、責任ある発言を求められました。

「この姿勢は野村證券からNRIになっても変わらない。私自身、若い社員に言い聞かせてきた」

緊張感の続く、気楽ではない日々。それでも社員にこの精神が浸透していったのはなぜでしょうか。理由の一つは「野村証券の調査部、すなわちその後のNRIで働くということに、誰もが誇りを持っていたからだ」と青山は言います。その誇りは「日本で初めて調査部を創設した人たちの時代を先取る思いからきているのではないか」。

NRIの源流を遡ってたどりつくのは、野村証券の創業者・野村徳七が野村商店に設置した調査部であり、調査を重視した徳七の理念です。今からちょうど100年前のことです。徳七は、商品に対して十分に知識を持ち、証券について科学的に研究をおこない、企業や銀行の業績などを調査して将来性を予測することがこれからは必要だと考えて、調査部を設立しました。同時に、調査した諸会社・銀行などの状況を顧客に伝える日刊紙『大阪野村商報』を発刊。今でこそ大手証券会社なら実施しているサービスですが、当時は「頼まれもしないのにわざわざ他人に儲け話の材料を教えるなんてバカげている」と同業者に嘲笑されたといえます。

徳七の調査部はその後、野村証券調査部となって発展します。戦前は、満鉄（南満州鉄道株式会社）調査部と並んで高く評価され、戦後は「調査の野村」として日本のトップを走り、数々の業績を残していきます。

高い志と、1億年後まで展望する姿勢を

もう一つの源流は、受託プロジェクトとして政府や

自治体、企業の課題解決を支援した総合研究部に始まります。

1966年に新設された鎌倉本社（総合研究部）に入社し、消費者・生活者の研究に従事した鈴木正慶（元NRI顧問）は、初代の研究所長・佐伯喜一の精神が、今日のNRIの主柱となって存在していると言います。

「未来へ挑戦するという精神です。それと、高い志を持って仕事に当たるということも」初代所長の佐伯は、戦前は満鉄調査部、物資動員などをおこなう内閣直属の企画院、戦後は経済安定本部、経済審議庁と、国の政策策定に長く携わってきた人物です。「だからこそ、大きな展望を持って未来を切り開いていく気概を大切にしたいのだと思います。そして、世のため人のために挑戦する。それが志高く、ということでしょう」

しかし、新入社員にそれが伝わっていくものでしょうか。「当時、鎌倉の研究所は小さかったけれど、世界的な人物がたくさん訪れていました。それに、NRIには様々な専門性のある先輩たちがいましたが、知識に甘んじることなく、大きな志を抱いて仕事をしていました。そんな先輩たちと一緒にいると自然に影響を受けるのだと思います」

1962年に野村証券に入社、1965年のNRI設立時には証券調査部に入り、2000年までNRI副社長を務めた林健二郎も、時代を先取る精神をNRIの強みととらえています。

「100年後ではなく1億年後を考えて木を植えろ」と、NRI生みの親である野村証券副社長（当時）の北

裏喜一郎さんに言われて驚いたものです。いったいどうということなのか、と」しかしこの言葉を受け止めた林は、次の時代の正確な予測と先行投資をおこなう数々のプロジェクトを実施していきました。NRIはその後、力強く発展し評価を高めていきます。時代を先取る精神とともに、NRIの成長を支え、今日まで生き続ける強みとは何なのか。

先見力が生み出す驚きと感動 ～シンクタンクとして付加価値のある提案を

前述の鈴木正慶（元NRI顧問）は、「あまり外部からの仕事がなかった」当時のことを振り返りながら次のように言います。

「基本的に情報は無料という考えが当時は強く、シンクタンクの役割や評価が世の中にあまり認められていませんでした。だからこそ、付加価値ある提案、新しい価値を生み出すプロジェクトを開発する必要があったのです」

NRI設立当時は野村證券副社長、後にNRI 2代目社長となった北裏喜一郎から「学者にはできない、学者には負けない研究をするように」と、期待を込めて言われた言葉が、鈴木にとっては後の活動の支えになっていきました。「新しい価値を生み出そうとする姿勢、それが今日のNRI理念である未来志向に繋がっていると思います」

同様に、北裏から「100年後ではなく1億年後を考

えて木を植えろ」と言われた、林健二郎（元NRI副社長）はこの言葉と共に、NRI初代所長・佐伯喜一の「顧客に深い感動を与えることがシンクタンク経営の基本である」という考え方が、今日のNRIの原点になっているととらえています。

「顧客志向という意味での“顧客力”はNRIの強みです。ただし、単に顧客の立場になって考えると、お客様が儲かるようにして喜んでいただく、という意味ではありません。佐伯さんが意味するのは、何か新しい発見や創造によってお客様に心から“すごい”と感動していただくことです。これができなければシンクタンクではないと、設立当初から高い目標が設定されていました」

とはいうものの、お客様にどうすれば驚きや感動を感じていただけるのか。そのために必要なのが、未来志向であり、先を読みながら新しいビジネスや市場、価値を生み出していく先見力だと林は考えています。

10年後を的確に予測 新たな市場の創造も

実務的な指針としてNRIの初代社長・瀬川美能留が述べた「10年後に世間がやっていることを今やれ」という言葉を深く肝に銘じた林は、その後、社会で変化が起きるたびに、10年後を的確に予測する調査活動を続けていきます。

例えば、1973年に第一次石油ショックが起きたと

き、日本経済は回復不可能な打撃を受けると誰もが考えました。しかし、林はこの直後に、カナダ、アメリカ、ヨーロッパを回って10年後について展望し、その結果、逆に日本は世界最強の経済国家に浮上するという結論を出しました。林がまとめたレポート「世界の中の日本」は日本の産業界を勇気づけます。この予測が的確だったことは、すでに歴史も証明しています。

また、1975年には、NRI創立10周年記念の論文で「債券市場の時代が到来する」ことを予測。77年には第二次石油ショックと石油暴落を、80年には「金融自由化時代の到来」を、85年にはバブルの発生と崩壊を——と徐々に具体的な近未来像を提示します。

そのころと、インターネット時代の現在とでは、世の中の仕組みの複雑さもスピードの速さも比べものにはならないでしょう。そうした変化はあるものの、NRI社員の中には今日も、先見力によって新しい世界を切り開こうとする精神が脈々と伝わっていると林は考えています。

「普段は意識していなくても、先輩から受け継がれ形成されてきたDNAのようなものは、何かあるときに立ち返る原点になると思います」

冒頭に登場した鈴木も、OBとしてその点に不安はないと考えています。「NRIは今日も、先端的なプロジェクトに次々と関わっていますね。新しい分野を切り開いていこうとするDNAは、きちんと引き継がれていると信じています」(続く)

1900

●1904年(明治37)
野村徳七が「野村商店」を継承して業務を拡充

●1906年(明治39.4)
調査部設置。日刊の「大阪野村商報」創刊

●1925年(大正14.12)
野村證券株式会社誕生

●1965年(昭和40.4)
株式会社野村総合研究所(NRI)創設。
翌年、鎌倉本社を設置

●1965年(昭和40)
40年不況のまっただ中。
政府は不況打開への緊急対策を決定

●1965年(昭和40.6)
「総合研究」創刊

●1966年(昭和41.6)
初めての大型プロジェクトとして、
万国協会より万国博調査を受注

●1970年(昭和45)
万国博覧会の開幕。
この年の前後にシンクタンクブームが到来

●1973年(昭和48)
第1次石油ショック

●1974年(昭和49.6)
レポート「世界の中の日本」作成

●1975年(昭和50.4)
創立10周年。10月に、皇太子殿下、鎌倉本社をご視察

●1979年(昭和54)
第2次石油ショック

●1988年(昭和63.1)
NRIと野村コンピュータシステム株式会社が合併

●1990年(平成2)
バブル崩壊。10年不況の到来

●1996年(平成8)
金融ビッグバン

●2001年(平成13.12)
東京証券取引所市場第1部に株式上場

2000

木場総合センター タワーN棟竣工 (2007年3月)

NRIでは以前より、意思決定の迅速化、高付加価値オフィス空間の実現や不動産関連のトータルコスト削減を目指して、拠点の整備を進めています。この施策の一環として、新たな拠点を木場総合センター内に開設しました。

新拠点「タワーN棟」には、これまで東京都内の10ヵ所以上に分散

していた、主に金融機関向け事業を担当する技術者約3,000名が集結する予定です。また、社員の固定席を定めず、業務に合わせて自席を自由に設定できる「フリーアドレス制」の導入やICカードによる入退室管理の徹底などにより、業務の効率化とセキュリティ対策の強化を図ります。



タワーN棟外観

未来創発フォーラム2007 [名古屋] を開催 (2007年3月12日開催)

名古屋市の愛知厚生年金会館で、「未来創発フォーラム2007[名古屋]」を開催しました。「2010年、世界のなかの日本、そして名古屋。」をテーマとした、東京以外では初の開催となった今回のフォーラムでは、NRIグループの株主や取引先、一般のお客様など、約1,200名の参加者が集まりました。

フリージャーナリストの池上彰氏による「現代の世界情勢と日本の位置付け」、当社チーフエコノミストのリチャード・クーによる「日本経済 本格回復への課題」と

題した講演に引き続き、パネルディスカッションがおこなわれました。池上氏をモデレーターに、フリージャーナリストの草野満代氏、東新住建株式会社の深川堅治社長、中日新聞社・名古屋本社加藤幹敏

編集局長、当社名古屋オフィス代表奥田誠をパネリストとしてお迎えし、名古屋にとどまらず中部地方、ひいては日本の将来に関して活発な議論を展開しました。



パネルディスカッションの様子



会場内に設置された当社発行物の展示コーナー

「PRアワードグランプリ」 優秀賞を受賞 (2007年1月17日発表)



(社)日本PR協会片山理事長と広報部長の柴山

社団法人日本パブリックリレーションズ協会主催の「第9回日本PR

大賞『PRアワードグランプリ』キャンペーン部門において、NRIの出展したブランディングキャンペーン「2010年、日本の未来を提案します。」が優秀賞を受賞しました。同賞は、企業や団体が日常の広報活動とは別におこなった、特定のキャンペーンやイベントを対象にしたもので、ステークホルダーへの訴求、企業イメージの向上、生活者への啓発、市場開発、話題・

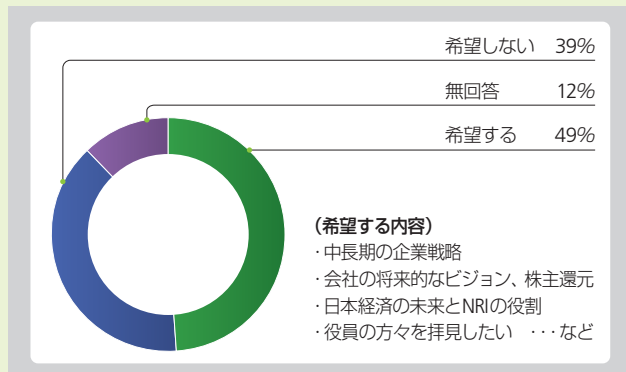
評判作り、販売促進などに成果をあげたPR活動に対して贈られます。当社は、多数の応募企業の中で、広告代理店などの支援のない自社単独キャンペーンとして唯一の受賞となりました。



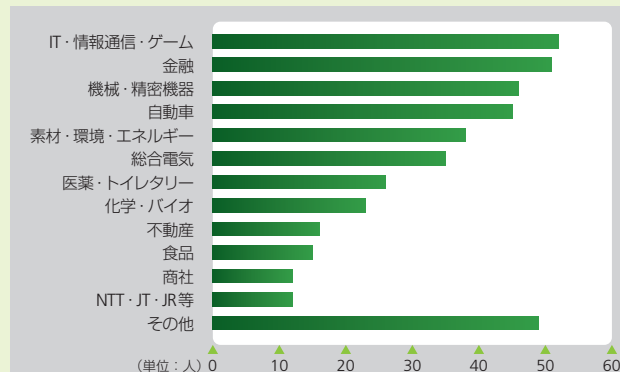
株主アンケートより 有効回答数：685

NRIでは、年2回、「NRIだより」にアンケートを同封し、株主の皆様のご意見を伺っております。「NRIだより」2006年Vol.4に添付したアンケートへも多数のご回答をいただき、ありがとうございました。今後も、業績や事業内容をより分かりやすくお伝えしてまいります。

個人投資家向けの説明会を希望しますか



当社以外に興味のある企業・業界がありましたら、お聞かせください



会社概要

会社名	株式会社 野村総合研究所
英文社名	Nomura Research Institute, Ltd.
所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番5号 丸の内北口ビル
沿革	1965年4月 株式会社野村総合研究所 (NRI) 設立 1966年1月 株式会社野村電子計算センター (NCC) 設立 1988年1月 両社が合併
資本金	186億円
代表者	取締役社長 藤沼 彰久
従業員数	4,407名/NRIグループ5,303名

株式の概況

発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式の総数	45,000,000 株
株主数	16,987 名

(注) 2007年4月1日付の株式分割 (1:5) 後、発行可能株式総数は750,000,000株、また発行済株式の総数は225,000,000株となっております。

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
野村アセットマネジメント株式会社	8,677	19.28
野村ファシリティーズ株式会社	3,720	8.27
株式会社ジャフコ	3,050	6.78
野村ホールディングス株式会社	2,600	5.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,078	4.62
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,869	4.15
NRIグループ社員持株会	996	2.21
ゴールドマン サックス インターナショナル	593	1.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)	586	1.30
高木証券株式会社	550	1.22

(注) 当社は、自己株式4,291千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

連結子会社

国内子会社

- NRIネットワークコミュニケーションズ株式会社
- NRIラーニングネットワーク株式会社
- NRIセキュアテクノロジーズ株式会社
- NRIサイバーパテント株式会社
- NRIウェブランディア株式会社
- NRIシェアードサービス株式会社
- NRIデータ i テック株式会社
- 株式会社インステクノ

海外子会社

- Nomura Research Institute America, Inc.
- Nomura Research Institute Europe Limited
- 野村総合研究所 (北京) 有限公司
- 野村総合研究所 (上海) 有限公司
- Nomura Research Institute Hong Kong Limited
- Nomura Research Institute (Singapore) Private Limited

資格取得者

情報処理技術者

システム監査技術者	196名
システムアナリスト	200名
プロジェクトマネージャ	262名
アプリケーションエンジニア	543名
テクニカルエンジニア (ネットワーク)	528名
テクニカルエンジニア (データベース)	244名
テクニカルエンジニア (システム管理)	158名
情報セキュリティアドミニストレータ	292名
上級システムアドミニストレータ	59名

証券アナリスト

169名

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (連絡先・照会先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店および全国各支店 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のフリーダイヤル（自動応答）およびインターネットでも24時間承っております。 フリーダイヤル 0120-244-479（本店証券代行部） 0120-684-479（大阪証券代行部） インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
単元株式数	100株
公告方法	電子公告（当社ホームページ http://www.nri.co.jp ） ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

2007年3月、個人投資家の皆さまに向けた ホームページを開設しました。

The screenshot shows a web browser window with the URL <http://www.nri.co.jp/ir/individual/index.html>. The page features the NRI logo and a navigation menu. The main content area is titled "個人投資家の皆さまへ" (For Individual Investors) and includes several sections:

- What's NRI**: A section titled "株式会社 野村総合研究所" (NRI Corporation) with a "詳細はこちら" (Details here) link.
- 業績ハイライト**: A section titled "数字で見るNRI" (NRI seen through numbers) with a "詳細はこちら" (Details here) link.
- 社長メッセージ**: A message from the Chairman (CEO&COO) 藤沼 彰久 (Fujinuma Akihisa).
- よくあるご質問**: A section for frequently asked questions about NRI.
- 株式情報**: A section for stock information.
- 株式に関する手続き**: A section for procedures related to stocks.
- もっと詳しく知りたい方は…**: A link to the "投資家情報" (Investor Information) section.
- 投資家情報へ**: A dropdown menu with links to: 電子公告 (Electronic Announcements), IRカレンダー (IR Calendar), 財務情報 (Financial Information), 決算情報 (Financial Results Information), 有価証券報告書 (Annual Report), IRプレゼンテーション (IR Presentation), IRライブラリー (IR Library), 格付情報 (Rating Information), 株主総会 (Shareholders Meeting), and ディスクロージャーに関する考え方 (Thoughts on Disclosures).
- 2007/3/1開催 個人投資家説明会資料 (710KB) (PDF)**: A link to the investor information meeting materials.

At the bottom, there is a disclaimer: "最新の情報をご覧になれる場合は、『投資家情報』を参照下さい。本ホームページは、(株)野村総合研究所の業績および経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本ホームページに記載されている意見や見直しは、作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。"

Footer text: 免責事項 | サイト利用規定 | 個人情報保護方針 | 個人情報の取り扱いについて | 情報セキュリティ対策についての宣言文 | NRIトップページ
NRI Copyright © 2007 Nomura Research Institute, Ltd. All Rights Reserved.

<http://www.nri.co.jp/ir/individual/index.html>



印刷配合率100%再生紙を使用しています。
Printed in Japan

株式会社 野村総合研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル
TEL 03-5533-2111 <http://www.nri.co.jp>